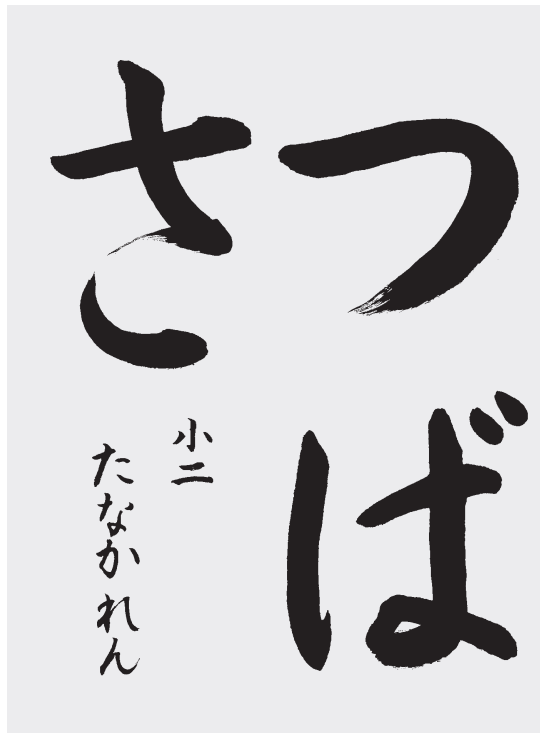


〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

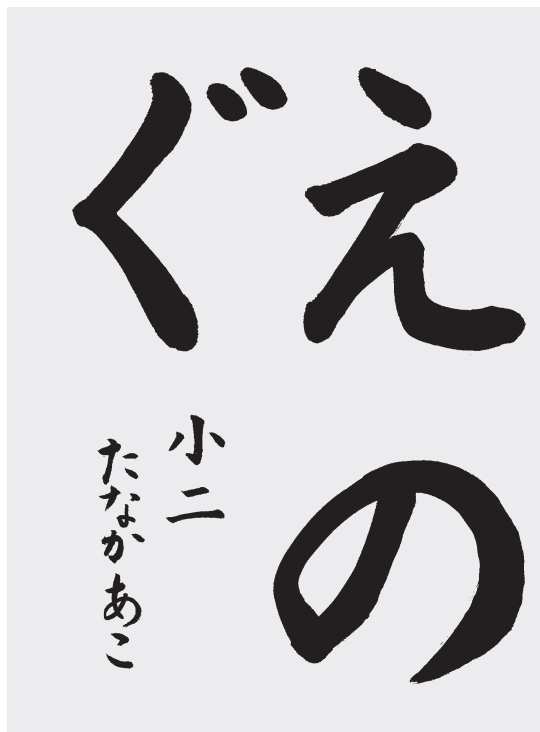


坂本素雪先生

幼・小学1年参考手本



三浦鄭衛先生



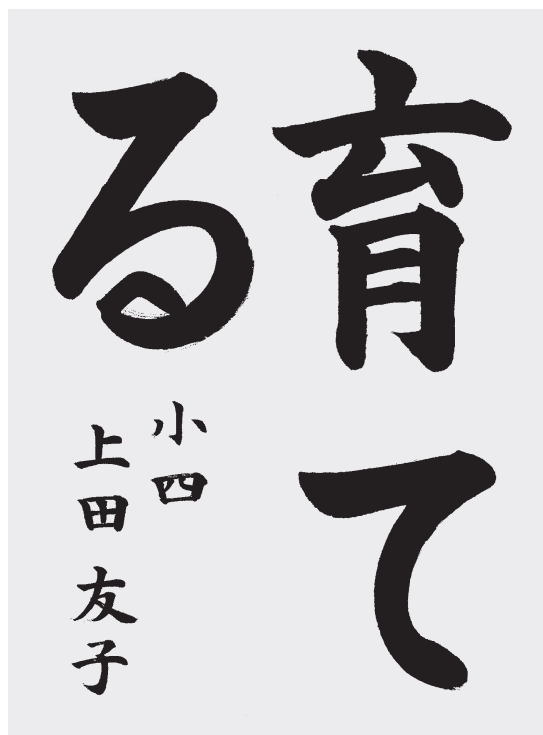
千葉蒼玄先生



一谷春窓先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



小竹石雲先生

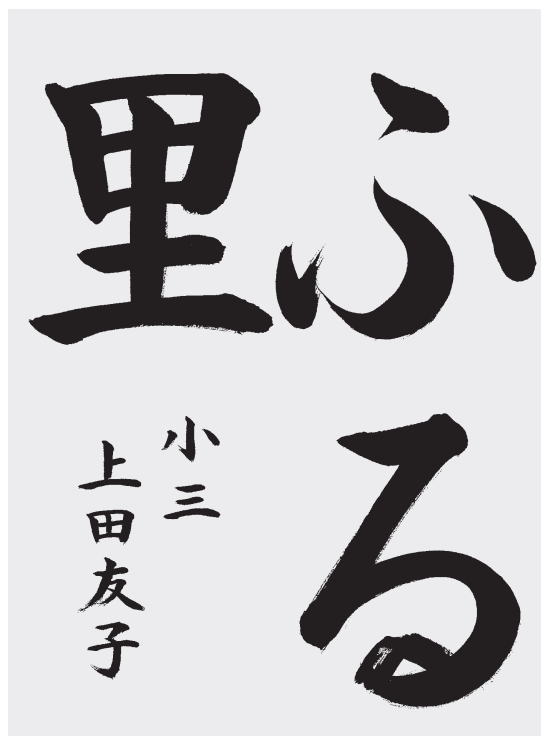


東福青篁先生

小学3年参考手本



山口仙草先生



川村美泉先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

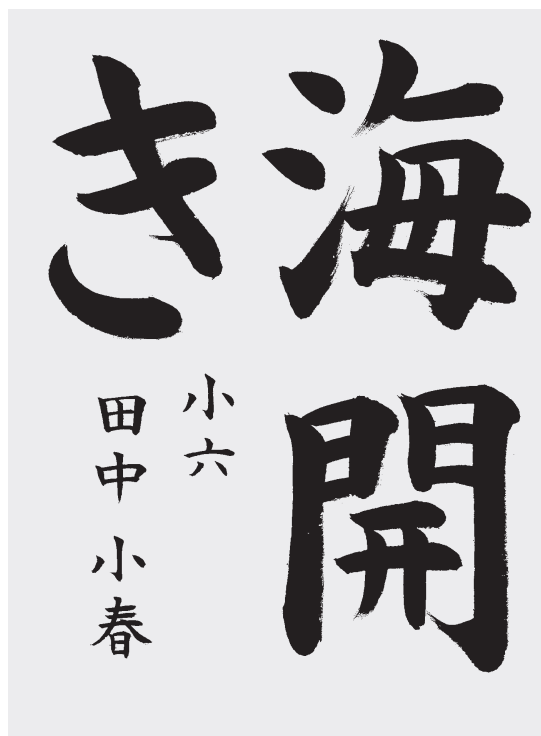


半田藤扇先生

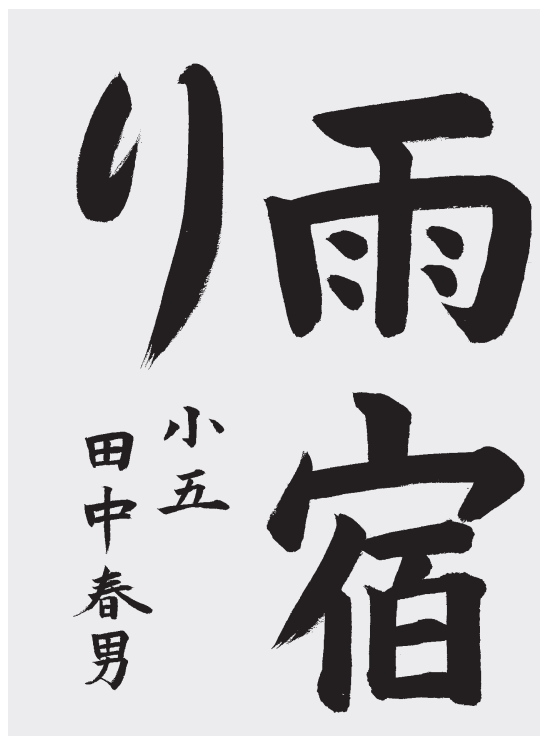
小学5年参考手本



稲垣小燕先生



大平邑峰先生



広瀬舟雲先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

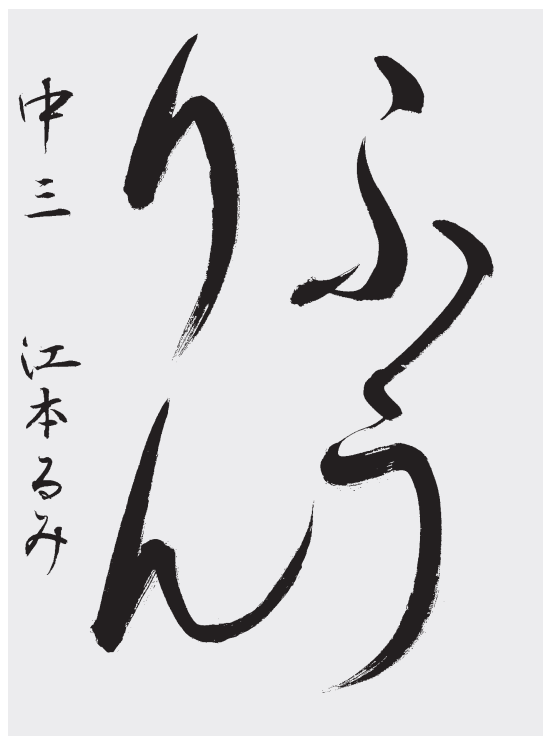
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



辻元大雲先生



名越蒼竹先生



下谷洋子先生



種谷萬城先生

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ヨ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年

つなげるきもちで
け
計計計け
け(ヨ) け(明)
け(教)

ちゅうしん 中
て
とめる
はらう

へげん 天天天て 川川川つ
てつ(ヨ) てつ(明) てつ(教)

3年

はねの上部あける
花
花(ヨ) 花(明) 花(教)

一ササササ花
花(ヨ) 花(明) 花(教)

2年

つばさ(ヨ) つばさ(明) つばさ(教)
つなげる きもちで
ささ 川川川つ
波波波は
左左左さ

えのぐ(ヨ) えのぐ(明) えのぐ(教)

えの
とめる
く久久く
ひろ

4年

等間隔で
育て
とめる

一六六育育育
育てる(ヨ)
育てる(明)
育てる(教)

はねの上部は
長く
あける
土地
土地(ヨ) 土地(明) 土地(教)

一十土
土地(ヨ) 土地(明) 土地(教)

5年

最大幅で上にそらす
共同
とめる

共同(ヨ) 共同(明) 共同(教)

中心
雨宿
出る
やや内側に

雨宿り(ヨ) 雨宿り(明) 雨宿り(教)

6
年

あける
等間隔
広く

熱気

中心より
左側に

一 去 劫 執 熱
ノ 一 一 氣 氣 氣
熱氣(ゴ) 熱氣(明) 熱氣(教)

ぎ海開
まっすぐに
余白

幾 〔字源〕
 幾 〔筆順〕

シ 沘 沘 沘 沘 沘
一 門 門 門 門 門
海 開 き (ゴ) 海 開 き (明)
海 開 き (教)

地層

《筆順》
一 十 土 扌 地
二 尸 尸 屈 屈 層
地層(三) 地層(明) 地層(教)

明日を
探る

2
13 扞扞扞探


 分 曲直
 止め


 日 はなす


 木 はね
 止め


 月 はなす


 ホ はね
 止め

七北
星斗

点画の連続

筆順
一 十 斗 北
一 七

曰曰旦早星
 北斗七星(ゴ) 北斗七星(明)
 北斗七星(教)
 つなげるきもちで

△突き返す

①形連（けいれん） 上の文字と下の文字の中心がそろうようにつなげて書く

②意連（いれん） 連綿線を用いず、上下の文字の筆脈を通して書く

ひらがなの字源 (403)

ん	り	う	ふ	字源 字形
无 えん ん	利 あり り	宇 う う	不 ふ ふ	

※ 字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。

※ 字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 2 年

幼・小学 1 年

硬筆參考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。ゴシック体（ゴ）・明朝体（明）・教科書体（教）・HGP行書体（H）

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
二									
名 前									
山口太一									

支 部 名			
だん・きゅう			
がくねん			
ー			
な ま え			
いがきらり			

つづけるきもちでかく

横画は等間隔に
左右の縦部は垂直に
《ひつじゅん》
一 十 主 青 青 青
青(三) 青(明) 青(教)

町

「丁」をさげて書く
へひつじゅん

一口町 田町 一町
町(三)町明町(教)

漢字の字形を正しくかきましよう。

て (三) て (明) て (教)

とめ
ほ(三)ほ(明)ほ(教)
みぎへ
右上へきもちをつづける


 き(ヨ) き(明) き(教)
 つづけるきもちでかく

「とめ」「はね」をただしくかきましよう。

〔6月8日締切課題〕

作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 4 年

小学 3 年

[illegible]

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
三									
名 前									
木下小春									

点画の長短に気をつけて書きましょう。

暑

長く
長さと方向に注意

筆順

暑(ヨ) 暑明 暑(教)

始

長く

筆順

始(ヨ) 始明 始(教)

夏

筆順

夏(ヨ) 夏明 夏(教)

[illegible]

〔6月8日締切課題〕

作品に「**学年**」と自分の「**氏名**」を本人が書く。

小学 6 年

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
六									
名 前									
上村公人									

中心

数人

数(ヨ) 数(明) 数(教)
 数(筆順) 数(米) 数(姿) 数(姿)

「へん」と「つくり」の組合せに気を付けて書きましょう。

小学 5 年

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
五									
名 前									
合田ゆり									

新

「つくり」を下げる
 とめ
 〈筆順〉
 新(三) 新明 新教
 ノ 乃 及
 級(三) 級(明) 級(教)

左右のつりあいよく、字形を整えましょう。

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生（行書）

支 部 名				
段・級				
学 年	中二			
名 前	谷 希 望			

雄大な景色と清らかな山の
 空気が私を出迎えてくれた。

中学生（楷書）

支 部 名				
段・級				
学 年	中二			
名 前	谷 希 望			

雄大な景色と清らかな山の
 空気が私を出迎えてくれた。

登	大
登 _△	大 _△
登 _△	大 _△

楷書

行書①

行書②

・行書のワンポイントアドバイス

右はらいの形には、二通りあります。
 行書①は右はらいの終筆を軽く止めています。△印
 行書②は、逆にそり、終筆をしっかり止めています。●印

中心
迎

中心より右側に

雄

登

（筆順）
 迎（ヨ）迎（明）迎（教）

（筆順）
 雄（ヨ）雄（明）雄（教）

（筆順）
 登（ヨ）登（明）登（教）

※「マ」の筆順に注意！

字の中心がゆがまないように書きましょう。

これからの作品締切日と課題

令和7年7月号～12月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
歩く	砂浜を	健康	白い波	パンダ	人口	はいく	の	7月6日	7月
おみこし	宇宙遊泳	文化財	林間	七色	つり糸	さんご	あめ		
波打ち際	湖畔	道路	思いやり	寺院	青	こかげ	ろ	8月3日	8月
青蛙 おのれもベンキ ぬりたてか	異口同音	大空の旅	海底	美しい	中心	ハム	にじ		
三筆	遣唐使	美術	列車	平行	月見	やさい	ま	9月7日	9月
くさの	無我夢中	くりの実	読む	虫のこえ	光る	おんぷ	ふえ		
秋の夜長	有徳	庭園	青空	考える	水玉	このは	ら	10月6日	10月
ぐも	(集字) 孔子廟堂碑	気配り	里の秋	風力	ランプ	もみじ	きく		
漢和辞典	運河	街角	ちぎれ雲	葉	点	あかり	ひ	11月4日	11月
くれ	(集字) 孔子廟堂碑	現代の書	野原	赤い実	火山	リズム	そら		
知る	海月	ブランド	冬山の朝	詩人	マウス	まほう	お	12月3日	12月
かな	(集字) 集字聖教序	誠実	理想	もみの木	森	ひなた	かぶ		

7月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

い	え	も
が	あ	り
あ	り	な
ま	す。	か
す。		に

小2

み	花
ん	だ
な	ん
で	の
と	ざ
り	っ
ま	草
し	を

小3

で	兄
家	と
に	友
帰	だ
り	ち
ま	と
し	三
た。	人

小4

で	い	大
行	海	き
き	原	な
ま	を	白
し	ゆ	い
た。	っ	船
	く	が、
	り	青
	進	
	ん	

小5

考	物	共
え	事	通
る	を	点
働	ま	を
き	と	見
の	め	つ
一	る	け
つ	こ	出
で	と	し
す。	が	

小6

が	果	地
目	を	区
標	全	予
で	部	選
し	出	で
た。	し	練
	切	習
	る	の
	こ	成
	と	

中学生

ン	近	頃	は、	安	全	で	健	康	に	よ	い	も	の
が	求	め	る	人	々	を	中	心	に	天	然	酵	母
が	見	直	さ	れ	て	い	る。						

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第99回 石碑建立物語 8

今回は、石碑の機械彫りについてのべたい。この機械彫りの方法もいくつかあるが、特殊な投射材という砂のようなものを碑石に圧縮空気で噴射してその衝撃で削っていくサンド・ブラスト加工という方法が一般的である。創立100周年記念碑の裏面は完全なる手彫りで行っていたのだが、表面は文字が大きく、日本一硬い碑石を深く刻さねばならないため、これから述べる方法で行った。噴射ノズルをマニピュレーター(手で持って作業を実行する管状の部分のこと)の先端に付けて、ゴム版に文字を写して彫刻刀で文字を切り抜いたものを石面に貼り、投射材を噴射していくのである。薄いゴム板を貼った場所は、これが緩衝材(かんしょうざい)となり石面にまったく変化はないが、石面に直接噴射すると、このみ削れていくのである。サンド・ブラストという名前は、加工技術の名前であって、金属系のスチール・ステンレス、非金属系のアルミナ・ガラスなどを細かい砂状にしたものを用いて噴射して彫る技術である。このなかでも酸化アルミニウムが成分の「アルミナ」は、セラミックスに分類されるが、ダイヤモンドに次ぐ硬さがあるため、これが多く使われるということであった。

ひと昔前は珪砂(けいしゃ)という石英を主成分とした白い砂(二酸化ケイ素)を使っていたという。硬度が高く、粒子が細かいことからガラスや陶器

の原料としたり、また研磨剤として広く用いられたというが、噴射することにより、石綿の健康被害と同じように肺を痛めることが判ったため用いられなくなったという。別なものに変えたといえども、やはり石粉やこれらの細かい粒子を浴びないようにしなくてはならない。頭からかぶる「かぶり面(めづめ)」等で顔をしっかり覆い、かつ、噴射する箇所の周囲をも「覆い」で厳重に囲って、粉塵が広がるのを防ぎ、そしてガラスをはめた「のぞき窓」から熟視しつつ、左手で作業窓から差し込んだマニピュレーターを、右手で噴射ノズルを操作して彫っていく。筆圧の強い部分を深く、筆圧の弱い部分を浅く彫り進むと出来上がるのであった。(つづく)



▲噴射して「女」字を彫っている様子



▲碑石に貼られたゴム板を剥がす前の様子(噴射終了後)

今月のホープ



筆先を生かした美しいひらがなの線です。連綿はリズムを持って滑らかに続き、自然な筆脈に筆の突き返しと見事です。

支那名	記	年	小
役・級	録	。思	学
学 年	を	い	生
氏 名	作	出	と
六	り	に	し
渡	たい	残	て
花	。	る	最
憐		学	後
		習	の

落ち着いた書きぶりで安定感のある堂々とした作品です。字形も確かで一点一画が大変充実した線です。

中三 天野衣織 (福山塾)



字形、運筆共に基本をしっかり身に付け安定感があります。名前も本文に調和して立派な作品に仕上がりました。

支那名	公	大
役・級	園	な
学 年	で	わ
名 前	し	と
三	ま	び
小	した	を
林	。	三
礼		角
来		

一字一字じっくり慎重に取り組んでいます。特にトメ、ハネ、ハライが丁寧ていねいに書けており、見事な作品です。

小五 岩上夏乃 (若美会)

小三 小林礼来 (恵雅)

小六 渡 花憐 (竹の子書道教室)

書道芸術院春華賞



「山里」

熊谷 翔

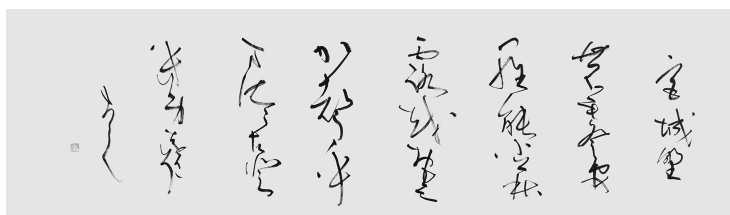
「ただ、書くしかない。」
先人の言葉を支えにギリギリまで書き続けました。きっと、これからの書道人生もこの繰り返しのだろうと思います。
今回の受賞を糧に、今まで以上に書に邁進していく所存です。今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この度、書道芸術院展におきまして春華賞を賜り、心より御礼申し上げます。
昨年の秋季展の折、師より、「いつもとは違う攻め方の作品を」という言葉を戴き、以前から考えていた横形式の聯作品を書くことと決めました。
最初こそ楽しく制作に臨んでいたものの、締切が迫るにつれ、思うような作品が書けない状況に焦りと苛立ちばかりが募りました。



かな部
熊谷 翔

書道芸術院大賞



「宮城野の」

菅原 澪花

この度、伝統を誇る書道芸術院展で栄誉ある大賞を賜り誠に有難うございました。日々の経過とともに大賞の重さが増し、身が引き締まる思いです。ひとえに下谷先生のご指導と芸術院の先生方、宮城野書人会の先生方、書友の皆様のお陰と心より厚く御礼申し上げます。
令和になり自由な時間が持てる環境の中でのかなを基本から学びたいと下谷先生の門を叩きました。喜び悲しみ言葉にできない思いを凝縮した和歌の豊かな世界を表すかなを学びたい、これが一因となりました。今回は万葉がなを選び古のよみ人の心情に想いを馳せながら筆を進めました。書くほどに難しく学ぶほどに奥深い。目指す書の道は、深く遠くへと続いております。
受賞の重さを忘れず初心に戻り新たな第一歩を踏み出す決意です。今後とも宜しくご指導お願い申し上げます。



かな部
菅原 澪花

第78回書道芸術院展

△編集部より▽
二月に全国学生書道展と一緒に行われた大人の展覧会上位作品です。

書道芸術院準大賞



「春の楽器」

岡本 要翠



「伽羅焚て」

甲谷 鳳梨



「わがやどの」

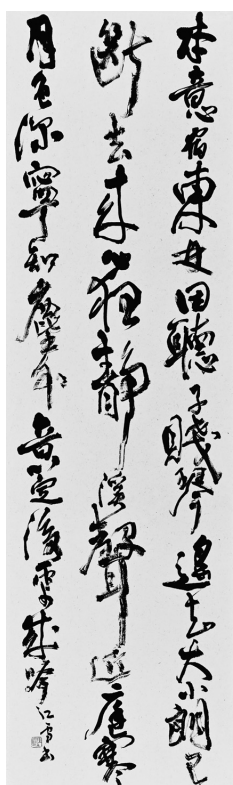
中里 智香

「蒼峯」



伊藤 草鈴

「唐詩 酬普選二上人」



藤野 江雪

幼・1年

の
さとうけんじ

あめ
小一 あべとしお

2年

くはい
小二 田中あみ

ごさん
小二 たしろゆり

3年

人口
小三 ふじさわれん

糸つり
小三 山中明

4年

ダパン
小四 上田友子

七色
小四 山上友子

5年

波白
小五 田中文

林間
小五 上田太一

6年

健康
小六 上田友子

文化財
小六 高井勝

中学

適切
中一 山本礼

宇宙遊泳
中二 スズメ清

砂浜を歩く
中三 山川一郎

おみ
中二 田山千春

編集余録

○5月6日が春季昇段級試験の締め切り日です。昇段級試験は春と秋の年2回しかありません。段級昇格のチャンスです！皆さんの力作を期待しております。

○2月に東京都美術館で開催された「第78回書道芸術院展」の上位入賞作品を掲載しました。書道芸術院は、漢字、かな、現代詩文書、篆刻刻字、前衛書の5部門を擁する総合団体です。多彩な表現の作品をぜひ鑑賞してください。

○2025年大阪・関西万博が4月13日からスタートしました。万博（万国博覧会）は、各国が最新の技術や文化を紹介し、国際的な交流を促進する場で、地球規模の様々な課題に取り組むため、世界中からたくさんの人やモノが集まる大規模イベントです。日本で開催されるのは20年ぶりです。2005年愛知万博では、今では当たり前のように使われている、ICチップ入り入場券、AED、ドライミストなどの新しい技術や商品が紹介され、私たちの生活が便利になるきっかけとなりました。今回の万博では、自動運転EVバス、空飛ぶクルマ、最新のアンドロイド等々、最先端の人口知能（AI）や仮想現実（VR）など次世代の技術が紹介されています。万博をきっかけに、今後さらに技術開発が進み、数年後には思いもよらない未来が待っているかもしれません。（悠輝）